



平成28年8月12日

各 位

会社名 株式会社 コメ 兵
 代表者名 代表取締役社長 石原卓児
 (コード番号: 2780 東証第二部・名証第二部)
 問合せ先 取締役 I R 戦略室長 鳥田 一 利
 (TEL. 052-249-5366)

業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成28年5月13日に公表した業績予想及び配当予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

●業績予想の修正について

平成29年3月期第2四半期(累計)連結業績予想数値の修正(平成28年4月1日～平成28年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	21,000	930	930	620	56.59
今回修正予想(B)	18,500	△143	△157	△160	△14.60
増減額(B-A)	△2,500	△1,073	△1,087	△780	—
増減率(%)	△11.9	—	—	—	—
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成28年3月期第2四半期)	20,936	1,148	1,144	699	63.88

平成29年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	48,000	2,850	2,850	1,900	173.41
今回修正予想(B)	41,500	1,230	1,230	840	76.67
増減額(B-A)	△6,500	△1,620	△1,620	△1,060	—
増減率(%)	△13.5	△56.8	△56.8	△55.8	—
(ご参考)前期実績 (平成28年3月期)	45,903	2,789	2,742	1,696	154.86

平成29年3月期第2四半期(累計)個別業績予想数値の修正(平成28年4月1日～平成28年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	18,500	850	850	580	52.94
今回修正予想(B)	16,500	△175	△177	△165	△15.06
増減額(B-A)	△2,000	△1,025	△1,027	△745	—
増減率(%)	△10.8	—	—	—	—
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成28年3月期第2四半期)	18,819	1,088	1,093	669	61.13

平成29年3月期通期個別業績予想数値の修正（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	42,500	2,450	2,450	1,650	150.59
今回修正予想(B)	36,000	850	850	550	50.20
増減額(B-A)	△6,500	△1,600	△1,600	△1,100	—
増減率(%)	△15.3	△65.3	△65.3	△66.7	—
(ご参考) 前期実績 (平成28年3月期)	40,554	2,426	2,400	1,480	135.12

業績予想の修正理由

当社グループにおきましては、個人消費の低迷やインバウンド需要の減速等により、厳しい状況で推移しております。

当社におきましては、「KOMEHYO 買取センター新宿南口」の新規出店、テレビCM等を使った各種プロモーション施策など、販売、買取の強化に取り組みましたが、消費マインドの低下やリユース業界での競争激化などから販売及び、個人買取の苦戦が続いております。

当期の売上高予想といたしましては、主に一般消費者からの商品を買取り、主に店頭、WEB等で販売するビジネスの仕組みから、仕入高の約65%を占める個人買取予算を新規出店分の在庫確保を含め前期実績比15%程度伸ばす前提で売上高4.6%増加の見通しを立てておりました。

売上高予想の減少要因といたしましては、個人買取が弱含みで推移しており（前年同四半期比12.8%減）、さらに前期の売上高のうち約58億円のインバウンド売上高についても第1四半期比40%以上の下落が見られるなど、第2四半期以降も同様に苦戦を強いられると予想されます。

営業利益予想の減少要因といたしましては、売上高の減少が主な要因で、今後広告宣伝費等販管費の縮減に取り組んでまいります。売上高が前期比で10%以上減少することが見込まれることから、当初計画の50%以上の減少予想となりました。

想定以上の環境の変化に対応するため、それまでの「売上重視」による規模の拡大戦略から「利益重視」への転換を図り、売上高総利益率の低い在庫の削減や滞留期間管理など更なる在庫コントロールならびに広告宣伝費縮減などコストコントロールの強化に取り組んでまいります。しかしながら、第2四半期以降においても、営業面では引き続き厳しい状況となることと予想されることから、売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期（当期）純利益、四半期（当期）純利益が前回発表数値を下回る見通しとなりましたので、業績予想を上記のとおり修正いたします。

●配当予想の修正について

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
前回発表予想(平成28年5月13日)	—	16.00	—	16.00	32.00
今回発表予想	—	15.00	—	15.00	30.00
(ご参考) 前期実績 (平成28年3月期)	—	15.00	—	15.00	30.00

配当予想の修正理由

当社は、将来の事業展開と経営体質強化のために必要な内部留保を確保しつつ、収益やキャッシュ・フローの状況に応じて株主の皆様に対する適切な配当を実施していくことを基本方針としております。

当期の配当予想につきましては、第2四半期および通期の業績予想が前回予想を下回る見通しであることから、誠に遺憾ではありますが、上記のとおり中間配当金（第2四半期末）15円、期末配当金15円と修正させていただきます。これにより年間配当金は30円となる予定です。

(注) 上記の予想は現時点で入手可能な情報に基づき算出したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以上